

第5回 成瀬平馬家長屋門保存改修検討委員会会議録

日時：令和元年12月13日（金）13:15～15:00

場所：ハイトピア伊賀5階 学習室1A

委員：菅原委員・福井委員・菊野委員・谷村委員

施工業者：(株)瀧川寺社建築（高井氏・山浦氏）

工事監理者：(有)伊藤平左エ門建築事務所（望月氏）

事務局：文化財課（笠井）建築住宅課（石田・中澤）

中心市街地推進課（堀川・武田）

事項：1. あいさつ

2. 報告事項

経過説明 資料①

今後の工程について

3. 検討事項

瓦の意匠について

決定された事項

会議録

2. 報告事項

経過説明 資料①に基づき説明

今後の工程について説明

(委員) 柱下の盤木が約8割程度あったということですが当初からのものですか。

(監理者) なかには盤木のないものもあるために、当初からすべてに盤木があったとは考えにくいです。盤木の上に盤木があるものもあるなど、かなり無理のあるものもあることから、当初から盤木を使つての施工はなかったと想定しています。

(委員) かなりの盤木の数であったので当初に遡るものがあるのかないのかをお聞きしました。基礎のコンクリート注入工事ですが、それによって基礎の位置に変異はないのですか。

(監理者) 注入によって多少基礎の位置は高くなります。

(委員) 門正面に家紋がつくのでしょうか。

(事務局) 当初、長屋門に家紋があった痕跡はありませんが、成瀬家の長屋門ということで家紋をつける予定をしています。後付けしたことが分かるように表札のように付け外しが可能なものにする予定です。

(委員) 家紋は丸に片喰ですか。

(監理者) 鬼瓦にもある丸に片喰です。

(委員) 東側面の隅鬼等瓦はこのまま使えるのでしょうか

(監理者) 補修して使います。基本的に部材は使えるものは使う予定をしています。

3.検討事項

瓦の意匠について

(監理者)

瓦については全面本瓦とすることとなりました。

本日は巴瓦と軒唐草の紋様について、どの瓦を元に制作するのかについてご検討をいただきたいと思っております。瓦の残っている数量につきましては、資料に記載のとおりとなります。数量的には古い瓦はあまり残っていません。南面の軒丸はすべて新しいものになっており、東面は様々な瓦を寄せ集めた感じとなっております。

巴瓦につきましては、A～Jまで10種類の瓦が出てきました。数量としてはAが12枚、Bが9枚と他のものより多く残っています。時代的にはすべて江戸時代の瓦と想定します。AとBは土の質なども大変似ておりからも同じ釜で焼かれたものではないかと思えます。GとHは長屋門より大きな建物で使用されていたものを転用してきたと考えられます。伊賀上野地震の時に瓦が崩落しその修理のために色々な所から瓦を寄せ集めて修理を行ったのではないかと想定します。

軒唐草はA～Eの5種類になります。A・BとC・D・Eでは焼き色・瓦の反り具合・幅が異なります。9寸1分が当初からの葺き幅であることからC・D・Eは少し幅が小さいものになります。実際に現場で見ただけであればと思います。

～現場にて瓦の確認～

(委員長) 現場確認の結果、巴瓦A、唐草瓦Aを元とすることとします。